Ｎｏ．４９８【２０２２年３月２５日配信】

出土遺物の整理　その２（担当：児玉大成）

こんにちは。文化財課の児玉です。先月に引き続き、今回も発掘された出土遺物等の整理について紹介します。

〇接合・復元

発掘調査では、ほとんどが壊れた状態で土器が出土します。これらを元の形に復元するため、注記された土器片を机の上に広げて、同じ個体のものを探しながら、ジグソーパズルのように並べていきます。1 種類（絵や写真）のピースを組み立てるジグソーパズルとは違い、土器の場合だと複数個体が混ざった破片が対象となります。ジグソーパズルでは、外側のピースから組んでいく人が多いと思いますが、土器も同じように外側の口縁部（こうえんぶ）から並べ、文様の連続性や縄目文様の種別、厚さ、色、断面形などを観察しながら、破片をつなぎ合わせていきます。

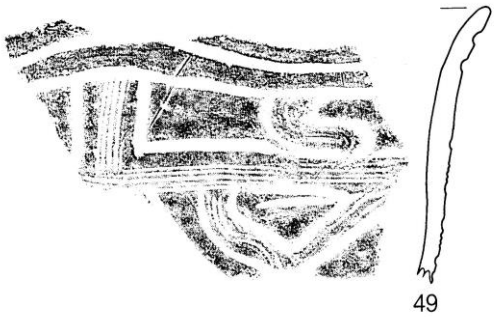
次に、元通りの形にするため、接着剤や洗濯ばさみ、仮止め用のテープを用いながら、立体的に復元していきます。慣れていないと接合した時に接着剤をはみ出したり、歪んだ形になったりしますので、経験が必要になります。

破片が失われている部分については、石膏等で埋めていきます。私が学生の頃から市に採用された平成 7 年頃までは、歯科用の石膏を使用していました。ゴム碗の中に入れた石膏の粉を水で溶かすと、ペースト状に徐々に固くなり、ケーキのクリームを塗るように、ヘラを使って不足する部分に入れて補っていきます。近年では、石膏よりも扱いやすいクレイテックスという専用の充填剤を使用しています。

〇拓本

復元できなかった土器の破片については、必要に応じて「拓本（たくほん）」をとります。拓本は、湿らせた画仙紙（和紙の一種）を土器の表面に密着させて、その上から墨を打ち、文様を写し取る方法で、「湿拓（しったく）」とも呼ばれています。湿った画仙紙が徐々に乾燥していくと、土器の文様部分に凹凸が生じ、墨を打つと凹部は白いまま、凸部は黒くなり、文様を写し取ることができるのです。昨年 10 月に行った小学生向けの体験では、紙を破いてしまったり、墨にムラができたり悪戦苦闘しながらも、最後はきれいに文様を写し取ることができました。

復元された土器の展示
（縄文の学び舎・小牧野館）



土器の拓本
（稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ第 284 図 49,
青森市教育委員会 2003）